

令和元年12月9日

智頭町議会議長 大河原 昭 洋 様

同和問題調査特別委員長 高橋 達也

委員会調査報告書

本委員会の調査事件について視察調査を実施したので、智頭町議会会議規則第77条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1. 期 日

令和元年11月7日（木）

2. 場 所

大阪府大阪市浪速区浪速西3丁目6番36号 「リバティおおさか」

3. 目 的

社会に存在する具体的な人権問題やその解決策についての理解を深め、今後の議会活動及び議員活動に資する。

4. 派遣委員

委員10名

5. 所 感 等

リバティおおさかでは、平成25年度に大阪府・市から一方的に補助金が廃止、次いで平成27年7月には大阪市が建物収去と土地の明け渡しを求めて提訴し、裁判継続中である。

このため、施設の自主運営の継続が厳しい状況となっている中、少しでも応援したいとの趣旨もあり、今回の視察を計画した。

この博物館は、もともと小学校の建物であったそうだが、そのようなイメージを感じさせないもので、近年の視察来館者の状況は、大阪府内では減少しているが、近県では従前と大きな減少はないとのことであった。

常設展示では、被差別部落をはじめ在日コリアン、障がい者、アイヌ民族、公害被害者差別等、様々な分野の人権に関する展示を通じて、差別・人権問題について認識を新たにした。

企画展「江戸を科学する～火縄銃・甲冑・医術・忍術」では、1615年（慶長2

0年)の大坂夏の陣で真田幸村が徳川家康の本陣に奇襲をかけた際に、馬上から狙撃するために用いた8連発の火縄銃(馬上筒を落としたため家康は難を逃れたという)をはじめ、貴重な展示が見学できた。もし狙撃が成功していたら歴史は大きく変わっていただろうと考えながら鉄砲を見ていると、感慨深い思いであった。

また、前近代の被差別民を含めた職人技や武術、医術に係る製品には、すでに西洋に匹敵する技や科学があったといい、江戸時代の下層身分の人達が生産した皮革が日本の近代化に大きく貢献した事実が多岐に渡っていたことも、大いに興味を持った。

リバティおおさかは、博物館法に基づく全国唯一の人権総合博物館であり、裁判を克服して今後も運営が継続されることを期待するとともに、より多くの人に利用されることを望むものである。

今回の視察をもとに、議会人として身近な差別・人権問題について一層関心を深め、差別解消に向けて行動する重要さを改めて認識した。

常設展示ではハンセン病回復者の件も取り上げてあり、次回はハンセン病病棟等の視察を行い、同和問題などと併せて広く人権問題に取り組みたい。